アウシュビッツ以降に詩を書くことは野蛮だ——
このアドルノの呪縛を打ち砕くべく、
詩人たちはなおも書き続けた。

済州四・三詩集
椿が散ったと
金伶蘭 言うなかれ

四六変形判・並製・228頁・定価：本体2600円＋税

閏月社（atelier JunGetsu edit, typeset, and total book design.）

ご注文は☞JRCへ
FAX 03-3294-2177
＊全ての取次からのご注文が可能です（JRC 経由）
＊返品は長期間受け付けます

済州島四・三事件から80年。
暴力に蹂躙された果てになお言葉を発することが、
なぜ赦されるのか。
パウル・ツェラン、
アンナ・アフマトーヴァらのあとを継ぎ
いま金伶蘭が言葉に賭け、
そして問う。なぜ死者が
生き続けなければ
ならないのか。
全詩ハングルを併記した
鎮魂詩集。



【著者】
金伶蘭（キム・ヨンラン）
2011年『朝鮮日報』新春文芸時調部門当選で文壇にデビュー。同じ頃から済州四・三真相究明と名誉回復のための真相調査研究員として「済州四・三道民連帯」の取り組みに参加。詩集に『꽃들의 수사(花たちの修辞)』(동학사)、『몸 파는 여자(体を売る女)』(고요아침)、『누군가 나를 열고 들여다볼 것 같은(誰かが私を開き覗き見るような)』(문학의전당) など。

【訳者】
文京洙（ムン・ギョンス）
立命館大学名誉教授、在日本済州四・三犠牲者慰霊祭実行委員。主な著書に『済州島四・三事件―「島（タムナ）のくに」の死と再生の物語』(2018、岩波現代文庫)、『文在寅時代の韓国―「弔い」の民主主義』(2020、岩波新書) など。
髙正子（コォ・チョンジャ）
大阪市生野区生まれ。訳書に権正生著『オンマの白いチョゴリ』(1992、海風社)、金芝河著『論談　金芝河　生を語る』(1995、協同図書サービス)、著書に「『食』に集う街―大阪コリアンタウンの生成と変遷」(2006、『食からの異文化理解―テーマ研究と実践』河合利光編著、時潮社) などがある。

ご注文申込書

貴店名・帖合

注文数　　冊

発行　閏月社（じゅんげつしゃ）TEL：03-3816-2273

済州四・三詩集
椿が散ったと言うなかれ
金伶蘭／文京洙・髙正子［訳］

ISBN4-978-4-904194-85-0　C0098

定価…2,600円＋税

11月30日発売